

参加された皆さまの声

従来、「ひがふなフェスタ」は地域交流を主眼とした「おまつり」と位置づけ考えておりましたが、去る5月18日開かれたミーティングでは、防災をテーマに東日本大震災を教訓に色々な職種の方々が様々な角度から問題意識を持って、取り組んでいる様子が窺えました。安心安全はみんなの願いでもありますので、これからも地域交流と併せて進めていただければ幸いです。

宮本地区社会福祉協議会 副会長 中豪久之

5月18日(土)宮本下宿公民館で、第2回ひがふなミーティングが「防災」をテーマとして開催された。上内事務局長の挨拶に続き、映像で「ひがふなフェスタのあゆみ」が紹介され、続いて大船渡の「津波伝承館」の齋藤館長が、東日本大震災の生々しい体験を語られた。その時、たまたま現地にいた金子茶茶店の金子店長も「想定外の惨い体験で、災害時にはつまらぬ物質的欲望は捨てること、最後まで頑張る勇気を持つことが重要と実感した」と述べられた。更に、松戸市長も参加され、防災の地域活動に強い関心を持って、このような催しを開催されたことに敬意を表したい。災害時最も大切なことは、「共助」であり、ひがふなフェスタの活動が防災防犯に強い街づくりに資することを大いに期待している。私達自治会としても、子供達の未来のためにも明るく住みよい街づくりに一歩一歩努力を積み重ねてゆきますが、更に防災の面からも日頃より「向こう三軒両隣」で本当に心の通い合う関係を築いていくよう努めて参りたいと思います。

花輪自治会 会長 中村隆次

下宿自治会館での『ひがふなミーティング』に、参加をさせていただき、ありがとうございました。宮本地区に住むみなさまの地域防災に関する様々なお考えやご意見を聞くことができ、地域防災の必要性について再確認をするとても貴重な機会となりました。特に、災害や緊急時に「自分は大丈夫」と思い込んでしまう、「正常性バイアス」という危険な脳の働きがあることや自助・共助・公助の考え方などを詳しく知ることができたことは、今後、子ども達の学校安全を確保する上でたいへん有意義であったと思っています。また、官民一体となって地域防災について考えるという新たな試みを通して、災害による被害からみんなの「生命・生活・人生」を守るためには、地域のネットワークが何より重要であると改めて感じました。このような機会を企画・運営して下さいましたひがふなフェスタ事務局のみなさまに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

宮本小学校 校長 松本正司

先日はありがとうございました。地元東船橋から離れて20年近く経ちますが、両親はまだ東船橋に住んでいます。震災の時、都内にいましたが、まったく何も出来ずに老いた両親の心配をするだけでした。このミーティングにスタッフとして参加しましたが、こんなに皆さんと話し合われているのに驚きました。少し身勝手ですが、この街なら両親も少しは大丈夫かな・・・と思いつつ、私が住んでいる街(都内)でも、このような取り組みをやってほしいと思いました。次はフェスタですね！今からとっても楽しみです！

参加者 N.A

ひがふなフェスタ運営事務局の声

第2回ひがふなミーティング～テーマ「防災」～にぴったりの充実した時間を仲間たちと共有出来ました。大船渡「津波伝承館」(齋藤氏)や自衛隊の活動(小寺氏)他VTRから災害の恐ろしさを再認識し、今私たちに何が出来るのか？また、備えることの大切さを知る良い機会だったと思います。今回のひがふなミーティングを通じて多くの方々と交流を深め、内容の濃いディスカッションの中から多くの事を学べたので今後も継続的に行事で、この地域の防災を含めた発展に繋がっていくと感じました。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 大竹克実

8年前、まだ幼かった子供達と不安な日々を過ごした。あの時、困ったこと・心配だったことを思い出し、いつ起きるかわからない災害を意識しよう！備えよう！自分にできることは？家族でできることは？地域でできることは？「まだ大丈夫」ではなく、できることから始めなければ！と強く感じたミーティングだった。

ひがふなフェスタ運営事務局 H.I

テーマが「防災」なので、おのずと東日本が意識された内容でした。震災伝承館館長や現役自衛隊員の映像を見ながらの体験談は考えさせられるものばかりでした。ディスカッションではフェスタに何を期待するかを話しあいました。フェスタはただお祭りではなく、地域の絆の拠点になると感じるミーティングになったと思います。

ひがふなフェスタ運営事務局 安田尚史

東日本大震災から8年が過ぎ、すっかり防災意識が薄くなっていました。今回このひがふなミーティングで8年前のお話を伺ったり、これからの対策を地域の皆さんとお話できた事は、改めて危機意識を持ついい機会でした。

ひがふなフェスタ運営事務局 岡田泰子

第2回ひがふなミーティングを終えてご参加・ご協力いただきました皆様には深く感謝しております。ありがとうございました。今回はテーマを『防災』～現状把握から対策実践まで～とさせていただきます。様々な立場の方からの貴重なお話を伺いことができ、ディスカッションでは多くの意見交換が行われ、短い時間ではありましたが、かなり凝縮された有意義な場だったと思います。「私たちに何が出来るか」を考え、具体的な動きに変えていくことが本当の防災につながっていくと思います。「ひがふなフェスタ」を通じて、より良い街づくりの一役が担えればと思っています。今後とも「ひがふなフェスタ」をよろしく願いいたします。

ひがふなフェスタ運営事務局 副局長 田島基祐



ひがふなフェスタ通信 VOL.10

発行日:令和 元年6月21日(金)
発行元:ひがふなフェスタ運営事務局



第2回ひがふなミーティング 令和元年5月18日(土)開催

本気で「防災」を考える ～現状把握から対策実践まで～

拝啓 皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、「ひがふなフェスタ」の活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます！さて、昨年に引き続き行われた「第2回ひがふなミーティング」は、テーマに「防災」を掲げました。出席者は、松戸市長を始め、危機管理課、自治会、地域住民、小・中・高の学校関係者、地域商店、自衛隊関係者など多岐に渡りました。また、特別ゲストとして、大船渡市より「津波伝承館」館長の齋藤氏をお招きしました。これだけの立場の違う方が「防災」というテーマで集まること自体、非常に価値ある時間帯だったのではないかと思います。ただし、今回は、官民一体となった防災対策に向けてのほんの小さな一歩に過ぎません。東船橋駅周辺は、「海拔が高い」「地盤が固い」という特徴があります。その特徴を活かした防災対策を本気で官民一体で考えていき、「ひがふなフェスタ」を通して少しでも形に出来ればと思います。今後とも「ひがふなフェスタ」をよろしく願いします。

ひがふなフェスタ運営事務局 局長 上内健生



ひがふなフェスタ 2019

～みんなであつなげよう、ひがふなの明日へ～

「ひがふなフェスタ2019～みんなであつなげよう、ひがふなの明日へ～」は、10月6日(日)に開催します！わたしたちの掲げる目標は「防災・防犯に強い街づくり」「子どもたちの未来のために」です。今回開催しました「第2回ひがふなミーティング～テーマ「防災」を軸に開催を予定しています。また、昨年は台風直撃のため荒天中止となりましたが、皆さんにご披露できなかった「ひがふな～ドーン！」をはじめとした健康、歌、スポーツなど、パワーアップしたフェスタを皆さんと一緒に作っていきたく思います。どうぞよろしくお願い致します。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 山本純子